

花のさくかげにはよせじひく猿の枝をゆふらばちりもこそすれ略○中
十八番 右勝

猿牽

〔萬葉集三〕太宰帥大伴卿讚酒歌十三首略○中
アチニクサカシラヲ痛醜賢良乎爲跡酒不飲人乎熟見者猿二鴨似カモニル

〔日本書紀二十九〕四年四月庚寅詔諸國曰略○中 莫食牛馬犬猿鷄之宐以外不在禁例若有犯者罪之

〔塵袋四〕一猿ヲ馬ノマホリトスルハ、イカナル子細ゾ、

猿ヲバ山父トナツケ馬ヲバ山子ト稱ス、コノユヘニ馬ニハサルヲオモクシテマホリトスト云云、文選ニハ、山父不貪天地之衣、曾參不慕晉楚之富ト云ヘリ、コノ山父ハ猿ニ非ズ、李善ガ注ニ山父卽巢父也ト云ヘリ、人ノ名也、別事也、譙周古老史記云、許由夏常居巢、故一號巢父云々、琴操曰、許由夏則巢居、冬則穴處、飢卽仍山而食、渴仍河而飲ト云ヘリ、コレラハ馬ノ事ニハ非ズ、又馬樞神ト云フ、神ハ馬ノマホリ也、ゾノ神ノ形像ヲ圖スルニハ、兩足ノ下ニ猿ト鶴トヲ踏テ、兩手ニツルキヲ持ス云々、宋朝ニハコレヲ馬ノマホリトス、此ノ神ノフメルモノナレバ、猿バカリヲモ用ル歟、樞ノ字ヲバ常ニハフミイタトヨム、但シ馬寮式云、以樞一艘宛馬二疋ト云ヘリ、ムマフ子ニハ槽ノ字ヲ用テ、フ子トヨマスルニヤ、樞ノ字又兩物ニ通ズル歟、

〔大和本草十六〕猿略○中 馬經ニムマヤニ母猴ヲカヘバ、馬ノ疫癘ヲ除クトイヘリ、潛確類書曰、猴

皮辟馬疫、本邦ニモ猴ノ馬病ヲサル事ヲシレリ、

〔安齋隨筆後編三〕一猿を厩に置事 稗海云、晉趙固之馬病、郭璞見之曰、使獼猴相馴之病可愈云、於

是隨璞之言、果病愈矣、此說にもとづけるのみ、左かれども妄作なり、信ずる事なかれ同上

〔倭訓栞前編十〕さるぎ 厩にて馬をつなぐ木をよべり、猿木の義也、猿を馬の祈禱にするは、郭璞